

研究課題名	悪性十二指腸閉塞に対する内視鏡的ステント留置術の現状と課題
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	(倫理委員会承認後)～ 2030年 12月31日
対象者	<p>2009年1月から2028年12月の間に、広島大学病院消化器内科において、画像検査の結果、悪性腫瘍に伴う十二指腸閉塞の合併と診断された方。悪性腫瘍の原発巣は問わない。またリンパ節転移により胃十二指腸閉塞をきたした症例も選定対象とする。胃排泄遅延症状を有するものの、画像検査で明らかな消化管狭窄を認めない場合や、18歳未満の未成年者は除外する。</p>
意義・目的	<p>膵癌や胃癌などの悪性腫瘍が進行し十二指腸へ浸潤をきたすと、消化管内腔が狭窄し、食餌の通過が困難となります。この病態を悪性十二指腸狭窄と言い、患者様の Quality of life を著しく損なうとされています。悪性十二指腸狭窄に対する治療として、外科的胃空腸バイパス術と内視鏡的十二指腸ステント留置術があり、現在侵襲の低い内視鏡的十二指腸ステント留置術が広く行われるようになってきました。しかし、施設によってその適応や戦略、使用するステントの種類は異なっており、最適な方法についてはいまだに議論されています。そこで今回、広島大学病院における悪性十二指腸閉塞の治療成績を見直し、今後より適切な治療を行うために、本研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、各種画像検査、化学療法の種類、投与量、投与期間などです。</p>
共同研究機関	ありません
利用を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護について	<p>取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p>
研究への利用を辞退する場合の連絡先・問合せ・苦情等の窓口	<p>研究に資料を提供したくない場合は下記の連絡先までお申し出ください。お申し出いただいて</p>

も不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5193

広島大学病院消化器内科 職名 助教 氏名 中村 真也